

## 3号機 制御棒の点検開始について

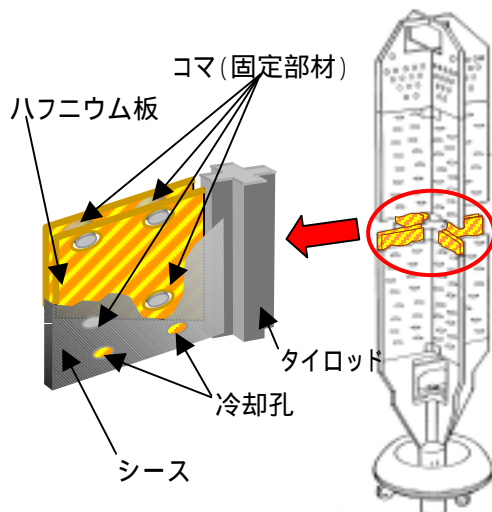
平成18年8月4日

定期点検中の3号機(定格電気出力 110万キロワット)において、平成18年8月6日より、原子炉内から取り出したハフニウム板型制御棒13本( 1)およびボロンカーバイド型制御棒16本( 2)の外観点検を開始します。

今回実施する制御棒の点検結果については、まとまり次第お知らせいたします。

これらのハフニウム板型制御棒13本については、今回の定期点検期間中にボロンカーバイド型制御棒への取替を実施します。

なお、使用済ハフニウム板型制御棒の外観点検において確認されたシース部( 3)の欠損部分([平成18年5月26日お知らせ済み](#))については、当該制御棒が配置されていた箇所およびその周辺について、今回の定期点検期間中にその有無を確認してまいります。



ハフニウム板型制御棒概略図



ボロンカーバイド型制御棒概略図

- 1 ハフニウム板型制御棒の点検は、東京電力株式会社福島第一原子力発電所6号機でハフニウム板型制御棒にひび等があることが確認されたことを受け、平成18年1月19日に国から当社を含めた沸騰水型原子力発電所を所有する事業者に対して出された指示文書に基づき実施するものです。  
ハフニウム板型制御棒とは、中性子を吸収しやすい性質を持つ金属であるハフニウムの板を使用している制御棒です。制御棒にはハフニウム板型のほか、同じように中性子を吸収しやすいボロン(ホウ素)を用いたボロンカーバイド型制御棒などがあります。3号機ではハフニウム板型制御棒が13本、ボロンカーバイド型制御棒が172本、合計185本の制御棒があります。
- 2 点検対象のボロンカーバイド型制御棒16本は、次の運転で継続使用する予定の制御棒が14本、使用済となる制御棒が2本です。
- 3 シースは、ハフニウム板を包んでいる板で、低炭素ステンレス鋼(SUS316L)製です。

以上